



後藤 太一郎  
肺がん・呼吸器  
病センター長

つて研究を進めた同院肺がん・呼吸器病センター長の後藤太一郎医師は「今後、診断体系が変わる可能性がある」と話す。

後藤医師によると、肺に複

肺に複数のがんが見つかる多発肺がん患者が増えていく。それぞれの関係性によって治療内容や予後が変わるが、従来は明確な区別が難しかった。山梨県立中央病院はゲノム解析を用いた鑑別法を世界で初めて発表。中心とな

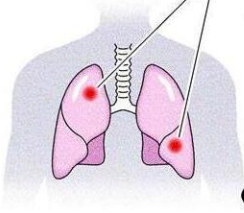
数のがんが見つかった場合、それぞれのがんの間に関係性がない「原発」と、関係性がある「転移」に分類される。原発は早期がんとして手術による切除、転移は進行がんとして薬物療法が一般的に選択される。

原発と転移で進行度合いや治療内容が異なる中、鍵を握

# 多発性肺がんのゲノム解析 原発と転移 正確に分類



## 多発肺がんの次世代診断



るのが両者の分類だ。後藤医師を中心とする同院の研究チームはゲノム解析により、がん組織の遺伝子変異を調査。遺伝子変異のパターンが異なる場合が原発、一致した場合が転移と明確に分けられることを突き止めた。

「CT・病理検査による鑑別はどうしても主観が交じって論文にして発表すると大き

てしまう」と後藤医師。「正確性に課題があると言われているが…」と驚きを隠さない。

がんは多様な臓器

な反響があった。多くの研究者による検証にも耐え、正確な鑑別方法としての地位を固めている。

「再発したり、複数の臓器でがんが見つかったりした場合もゲノム解析によって関係を調べて正確に病態をつかめるようになり、治療方法を

選りすぐる上で、確実性が高まった。「多くの患者に貢献できたのではないかと後藤医師。短い言葉に強い自信を

述べています。第2、4木曜日に掲載